

府中市議会 第14回議会改革特別委員会会議録（要約）

令和元年7月11日午前9時33分、議会改革特別委員会を第二委員会室において開会した。

1 出席委員

委員	長	三藤毅	副委員	長	本谷宏行
委員		加納孝彦	委員		安友正章
委員		土井基司	委員		加島広宣
委員		岡田隆行			
議長		加藤吉秀	副議長		大本千香子

1 欠席委員

なし

1 説明のため出席した者

なし

1 事務局及び書記

事務局長 赤利充彦 議事係長 小林正樹

1 本日の会議に付した事件

- (1) 調査事項のまとめについて
- (2) 市民アンケートの集計について
- (3) その他

~~~~~

午前9時33分 開会

1 調査事項のまとめについて

「なり手の掘り起し」「環境整備」「情報発信」について、前回、前々回の委員会で出された内容のまとめについて協議を行い、次のような意見が出た。

- ・各会派から出された内容を協議し、不要な部分の削除や新たな意見の加筆を行ったもので、まとめとしてはどうか。
- ・現在の内容では、重複している部分もあり、整理が必要ではないか。
- ・基本的に市民が見てわかりやすいものにすべき。
- ・わかりやすいものとは、どのようなものなのかイメージが湧かない。
- ・このまとめが、最終的に答申に近いものとなるのではないか。

これらの意見を踏まえ、委員長がまとめ案を作成し、次回の委員会で改めて協議することで決定した。

2 市民アンケートの集計について

- (1) 市民アンケートの集計内容の主な傾向について事務局から説明した。

- ・集計は、男女別、年代別に分けて集計している。
  - ・回答者数は1,000名発送し、回答者316名で回収率31.6パーセントである。
  - ・Q2「議会や議員活動の情報をどこから得ていますか」の問いでは、議会だより36パーセント、マスコミ24パーセント、会派・政党広報紙15パーセントで、この3つで75パーセントを占めている。
  - ・Q3「あなたが市議会議員に特に期待することは何ですか」の問いでは、行政のチェック29パーセント、生活環境の改善や生活相談役31パーセント、情報発信27パーセントとなっている。複数回答が可能だったことから回答数は606名となっている。
  - ・Q4「現在の市議会に市民の声が反映されていると思いますか」の問いでは、反映されていない45パーセント、わからない47パーセントとなっており、反映されると回答された方が5パーセントとほとんど反映されていないという状況である。
  - ・Q5「市民の声を市議会に反映させるために何が必要と思いますか」の問いでは、議会報告会17パーセント、各種団体等との議員懇談会43パーセント、政策提案につながる市民参画の仕組み32パーセントとなっており、顔を合わせることを求められていると思われる。
  - ・Q6「議員定数と議員報酬について知っていますか」の問いでは、知っている33パーセント、知らない65パーセントで、約3分の2の方が知らないという状況である。
  - ・知っていると回答した人の定数の回答は、86パーセントの方が20人と正確に回答されている。20人未満と回答された方が3パーセント、20人超と回答された方が5パーセントとなっている。
  - ・知っていると回答した人の報酬の回答は、55パーセントの方が40万円と正確に回答されている。40万円未満と回答された方が7パーセント、40万円超と回答された方が16パーセントとなっている。全体的には、40万円若しくはそれ以上貰っているという印象をもっておられるようである。
  - ・知っていると回答した人で、「議員定数をどう思いますか」との問いでは、削減すべき74パーセント、現状維持13パーセント、増員すべき2パーセントとなっており、特に女性の意見が厳しい傾向にあり、増員すべきはゼロとなっている。
  - ・知っていると回答した人で、「議員報酬をどう思いますか」との問いでは、減額すべき45パーセント、現状維持22パーセント、増額すべき12パーセント、わからない15パーセントとなっており、定数同様に女性の意見が厳しい傾向にあり、増額すべきはゼロとなっている。
- (2) 自由記述の主な傾向について事務局から説明した。
- Q7「議員定数や報酬等についてお考えをお聞かせください」と、自由記述により

ご意見をいただいている。

この記述については、316名中162名の方が記載されており、数字の集計に関連した内容のものがある。例えば、男性であれば、定数は削減して報酬を増額すべきであるとの意見は、集計された数字に近い意見である。

議員が何をしているのか分からない、市民の声を聞いて欲しいなどは、集計された数字に近い意見である。

数字的な集計も大事であるが、自由記述から市民の率直な気持ちがわかるのではないかと思われる。

### (3) 委員からの質問

◆：委員、◇：事務局

◆定数、報酬を知っていると回答した方の中で、正確に回答した人のみの数字を提示してほしい。

◇集計して提示する。

◆回収率31.4パーセントであるが、平成24年に実施したときの回収率はどの位か。

◇3,000名に送付して、約1,000名の回収であることから、約33.3パーセントである。

### (4) 委員の意見

- ・今後、定数、報酬を議論していくうえでの視点はどのようにすべきか。
- ・アンケート結果では、定数、報酬は減らすということであるが、今まで、論議してきた内容も踏まえて、定数、報酬は決めていくべきであり、単純にこの意見を反映するのはいかななものか。
- ・アンケートの目的は、市民の意見を知りたいということで実施するわけで、市民の意見はこういうものだということを前提のうえで、議論すべきである。
- ・アンケート内容は厳しいものである。
- ・アンケートの内容は、当然、前提として議論していくが、その他の視点からも議論する必要があると思うが、その視点を決める必要があるのではないか。

### (5) 今後について

定数、報酬を議論していくうえでの視点を確認して、各会派で協議していくこととした。

## 3 その他

次回の委員会は7月19日に開催し、「なり手の掘り起し」「環境整備」「情報発信」についてのまとめ、定数、報酬の議論の視点を確認することとした。

また、議会改革特別委員会全体会議を7月22日に開催することとした。

午後0時40分 散会

府中市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに押印する。

令和元年7月12日

府中市議会改革特別委員会  
委員長 三 藤 毅